

平成 29 年度業務 現地視察結果の概要

1. 概要

現地視察では、入込が多く集中的に施設整備が進んだ箇所とそうではないルートと比較して、ルート・コースごとのランク分けを含めた適正利用に関するビジョン検討に資する情報収集を目的とした。

現地視察は合計 3 回行い、第 1 回現地視察では利用の少ない登山道から比較的利用のある登山道（花山歩道～宮之浦ルート）で実施、第 2 回及び第 3 回現地視察では利用の集中する登山道（縄文杉ルート、白谷雲水峡）で実施した（表 1-1、図 1-1）。

表 1-1 開催日程及び実施場所

項目	開催日	場所	行程
第一回	平成29年8月18日～19日	花山歩道～宮之浦岳ルート	花山歩道入口～鹿之沢小屋 ～焼野三叉路～淀川登山口
第二回	平成29年11月5日	縄文杉ルート	荒川登山口～縄文杉・高塚小屋(往復)
第三回	平成29年11月6日	白谷雲水峡	白谷雲水峡～太鼓岩・辻峠(往復)

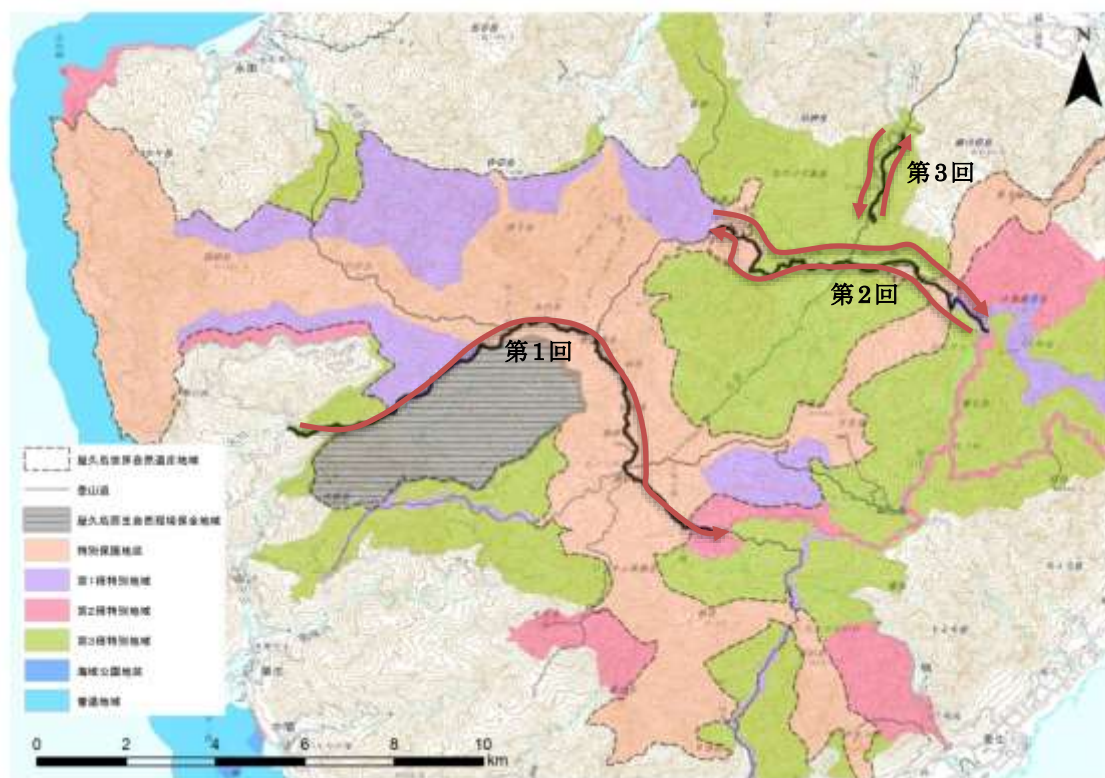


図 1-1 現地視察実施場所

2. 現地視察結果

2.1. 第1回（花山歩道～宮之浦岳ルート）

第1回現地視察の行程および現地で得られたコメントを示す（表 2-1、図 2-1）。

表 2-1 行程表（第1回）

利用状況	立ち寄り箇所	確認すべき状況
利用の少ない登山道	全般	自然環境、利用、登山道等利用施設の状況を確認
	①花山歩道入口 出発	登山口周辺の駐車状況
	②花山広場	原生林の状況
	③大石展望台	南側の七五岳の北壁を遠望
	④鹿之沢小屋 宿泊	避難小屋、汲み取り式トイレ・携帯トイレブースの使用状況、し尿のストック状況、テント設置状況
	⑤前野ローソク展望台	ローソク岩を眺望
	⑥永田岳	頂上の利用状況、祠
利用の多い登山道	全般	自然環境、利用、登山道等利用施設の状況を確認
	⑧宮之浦岳	頂上の利用状況、祠
	⑨栗生岳	頂上の利用状況、祠
	⑩翁岳鞍部	登山道の浸食・荒廃
	⑪花之江河	湿原、木道デッキの利用、携帯トイレブース、祠の状況
	⑫小花之江河	木道デッキ上の利用状況
	⑬淀川小屋	避難小屋、汲み取り式トイレ・携帯トイレブースの使用状況、し尿のストック状況、テント設置状況
	⑭淀川登山口 到着	登山口周辺の駐車状況、汲み取り式トイレの使用状況

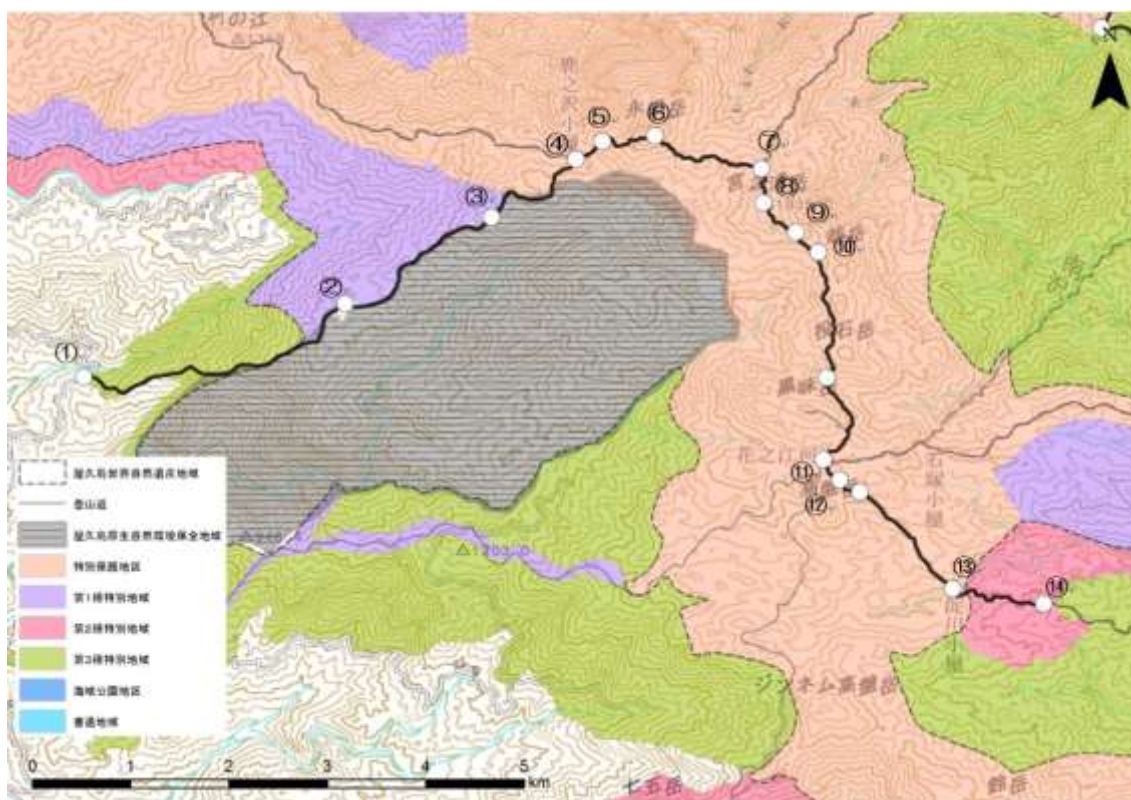


図 2-1 第 1 回現地視察の視察地点

【花山歩道入口までのアクセス】

- ・花山歩道入口に駐車している車は、多くても 2～3 台程度
- ・花山歩道まで送迎してくれるのは安房タクシーだけ
- ・花山歩道入口まで車を利用しない場合は、登山道入り口まで 2 時間かかる。そうすると鹿之沢にたどり着けない人もいる
- ・登山道までのアクセスを悪くすることで、結果的に利用調整になることもある

【花山歩道の現状利用】

- ・テント場がないとどうにもならない所がある。花山広場でビバークしている人もいる
- ・花山広場のようなところでビバークする場合は、携帯トイレを使って荒らさなければいいのではないか
- ・シカ道を登山道と間違えて遭難がおきている
- ・花山歩道と湯泊歩道は同じような環境だった。花山歩道は刈り払いがされて入りやすくなるのが心配される

【花山歩道やその他の登山道での整備や管理について】

- ・花山歩道は、ちょっと道がわかりづらくらいでいいのではないかな。パトロールは 1 年に 1 回程度、台風の後に行くくらいでいいのではないかな
- ・登山道は何もしなかったら削れて荒廃していく。歩きやすくするのか、侵食だけをとめるのか、ゾーン区分してゾーンごとの（管理）目標・方針の中で決めていけばいいのではないかな
- ・人数制限しないためには、ピンクテープを加減して設置する、ヤブコギしないといけなくようにすることなどを、ゾーンごとの（管理）目標・方針に取り入れてはどうか
- ・50～100 年先の人も訪れるようにしたい、資源の消費をしないようにするべきではないかな
- ・登りやすさだけでなく、整備や道迷いも含めて、めりはりのあるゾーンごとの（管理）目標・方針にする
- ・コンパス、地図がなくてはいけない場所があってもいいのではないかな
- ・実現できるかどうかはわからないが、湯泊歩道に関してはレクチャーを受けた人達だけが携帯トイレを使って、ガイドをつけたら入ってもいいとするなどしてはどうか
- ・登山道沿いの草払いをすると登山者が入りやすくなって、入込者数増加につながると思われる

【登山道の荒廃】

- ・登山道に石を敷くことで侵食緩和や歩きやすくなった面もあるが、屋久島らしさがなくなったとも感じられる
- ・敷石のある所は侵食が少ないように見受けられる
- ・登山道へは定期的に敷石を入れることで、侵食を防げないかな
- ・永田岳から鹿之沢小屋までの荒廃が大きく進んでいる
- ・アカホヤ（幸屋火砕流堆積物層）が流亡して花崗岩の真砂土が露出したら侵食は大きく進む

【山岳部の価値や魅力ほか】

- ・危険な場所、怖い所も魅力になる
- ・永田岳への岳参りは永田中学校が行っていた

2.2. 第2回（縄文杉ルート）

第2回現地視察の行程および現地で得られたコメントを示す（表 2-2、図 2-2）。

表 2-2 行程表（第2回）

	立ち寄り箇所	確認すべき状況
11月5日	全般	自然環境、利用、登山道等利用施設の状況を確認
	①荒川登山口 出発	汲み取り式トイレの使用状況
	②小杉谷集落	トロッコ道、林業遺構
	③楠川分れ	楠川線と合流
	④小杉谷山荘跡	バイオトイレの使用状況
	⑤大株歩道入口	循環式トイレの使用状況、
	⑥ウィルソン株	ウィルソン株周辺の使用状況、混雑
	⑦縄文杉	展望台デッキ、混雑
	⑧高塚小屋	避難小屋、汲み取り式トイレ・携帯トイレブースの使用状況、し尿のストック状況、テント設置状況

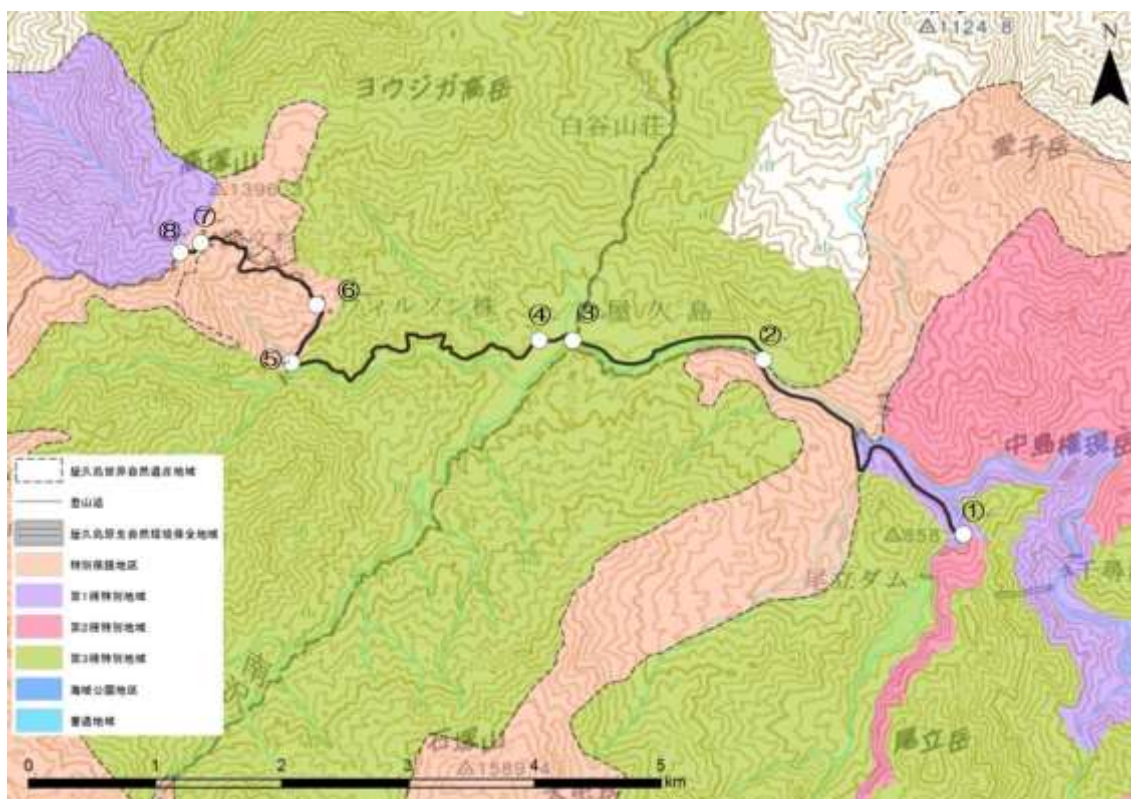


図 2-2 第2回現地視察の視察地点

【小杉谷山荘跡バイオトイレ】

- ・現在のバイオトイレの場所（小杉谷山荘跡）に仮設トイレがあった頃は、縄文杉に行つて戻ってくるまではここにしかトイレがなかった
- ・現在では、バイオトイレに 30 分並ぶことを考えると、大株歩道入口のトイレまで行けるので、バイオトイレで用を足さずに通過してしまうこともある
- ・女性の場合はバイオトイレに寄っていくことも多い
- ・大株歩道入口でもバイオトイレにという話があるが、絶対的な使用量が多いので数を増やすのか容量を増やすのかわからないが、難しいと思う

【大株歩道入口循環式トイレ、高塚小屋トイレ】

- ・かつては大株歩道入口トイレを利用するまで 1 時間かかった時もあった
- ・高塚小屋の夏のトイレは臭く、周辺から染み出ていることもある。アンケートの記入欄もトイレの匂いがきついとあった。新高塚小屋も同じ
- ・既設トイレの状況は変えないと仕方ないので、徐々に変えて行くしかない。それが 20 年後か 30 年後かもしれないが、それに向けて進めていく。ただし、利用が多いところはすぐには進まないと思う
- ・協力金をもらっているので、今の既設トイレの状況を仕方ないとしてはいけない

【翁杉携帯トイレブース、大王杉携帯トイレブース】

- ・携帯トイレブースは木造の方が安心する。避難スペースにもなる。
- ・扇杉の携帯トイレブースはテント型なので中は暗いが、大王杉の携帯トイレブースは木製なので結構明るい

【ウィルソン株】

- ・ウィルソン株のハートの写真は 1,998 年に観光雑誌で掲載された。ガイドはなんとなく知っていて、テレビ番組でガイドが紹介して 2,003 年くらいからブレイクした

【縄文杉展望デッキ】

- ・平成 19 年頃に入込のピーク時には、縄文デッキでは写真渋滞ができていた。カメラ渋滞をながして、北デッキの通路でなんとなく縄文杉を見て、早々に帰った。帰りもすれ違いがあつて前に進まない、頑張つて歩いても登山口に 18 時過ぎに到着することもあり、臨時バスを出さざるを得ないこともあつた
- ・大株歩道より上では、混雑時にすれ違いでいざこざが発生することもある
- ・縄文杉展望デッキは、将来的には今の下りルートから上り、連絡木道→南デッキ→北デッキに登る又は登山口方面へ降りるよう一方通行にすると一筆書きになってすれ違いが解消されると思われる。

- ・南デッキの入口と写真撮影スポットが近接しているため、滞留する場合もある
- ・昔は縄文杉に初めて 100 人を超える人が来るとなった時には、大騒ぎした。今では 100 人は少ないという時代になった

【大株歩道入口～ウィルソン株までの木製階段】

- ・木製階段のネジは破損していることもあり、締めることができない

2.3. 第 3 回（白谷雲水峡）

第 3 回現地視察の行程および現地で得られたコメントを示す（表 2-3、図 2-3）。

表 2-3 行程表（第 3 回）

	立ち寄り箇所	確認すべき状況
11 月 6 日	全般	自然環境、利用、登山道等利用施設の状況を確認
	①白谷雲水峡 出発	汲み取り式トイレの使用状況、入口周辺の駐車場混雑
	②白谷山荘	避難小屋、汲み取り式トイレ・携帯トイレブースの使用状況、し尿のストック状況、テント設置状況
	③太鼓岩	展望箇所の混雑
	④辻の岩屋	休憩箇所での周辺植生への影響

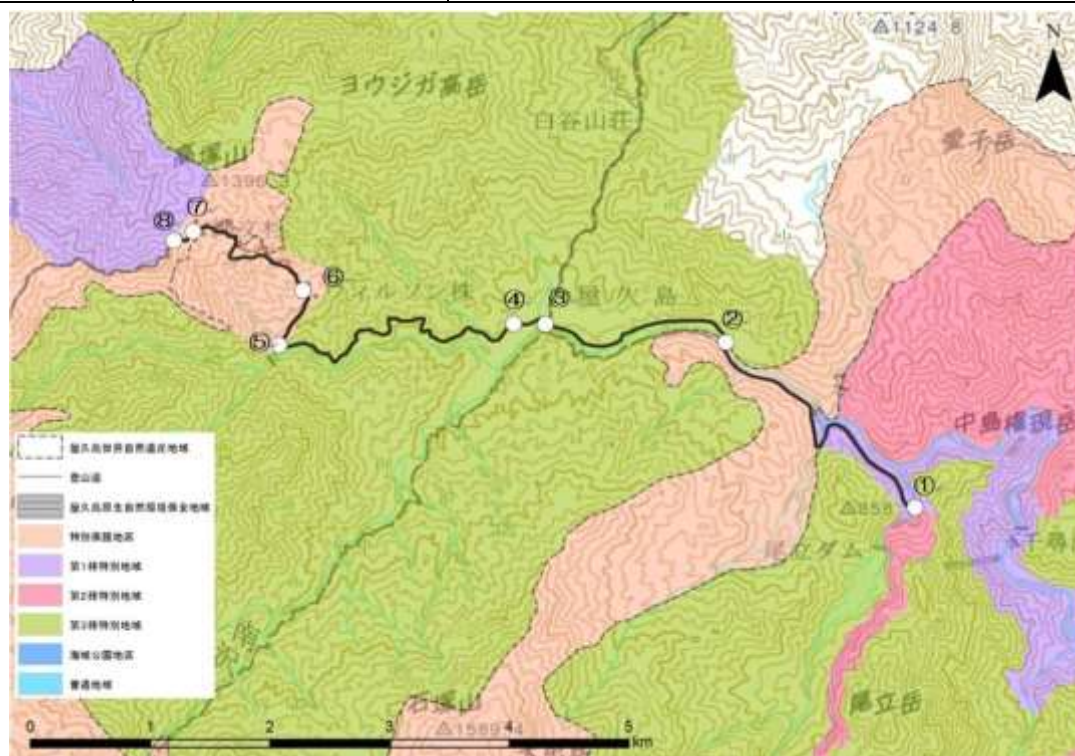


図 2-3 第 3 回現地視察の視察地点

【白谷雲水峡入口の駐車場、水洗トイレ】

- ・宮之浦港から白谷雲水峡まで 30 分で行けるので、沢山の人がはいりこめてしまう。マイカー規制の有無や、駐車場のキャパが入込数に影響する
- ・白谷雲水峡の駐車場入りロトイレは蒸発散しているが、対処しきれていない。団体がくるので、ここはくみ取りトイレのほうがいいのかもしい
- ・白谷雲水峡の駐車場入りロトイレの蒸発散は、当時画期的だった。現在は利用が多く蒸発散の故障がある。蒸発散を止めて汲み取りの回数を増やしている

【白谷雲水峡の利用者層、利用状況】

- ・徒渉点もあるのに他地域の園地のようなイメージで来てしまいがち。スニーカーにジャージのような恰好でも来ている
- ・白谷から縄文に行くツアーは増えている。楠川分れにカウンターがあるが年間 8,000 人くらいの通行がある
- ・高速船が宮之浦に入るようになって手軽に行けるようになったから、ヤクスギランドよりも入込数が増えた。それ以前は「屋久島はその気でいかないと」行けないところだった
- ・2,000 年当時には「苔むす森」は当時なかった。2,001 年頃のガイドツアーは白谷小屋までしか行かなかった。なぜかという「苔むす森」に行く必要がなかったから。原生林歩道に少し入ったところがメインだった。「苔むす森」が観光客の口コミで有名になっていて、どんどん奥に行くようになった
- ・太鼓岩は 2,002 年くらいからなんとなく切り開かれていった。昔のガイドブックには辻峠は書いてあったが、太鼓岩はなかった。ガイドブックに掲載されるようになってから、いろいろな人が行くようになった
- ・太鼓岩は学校登山の無線連絡で先生たちが使っていて、前からは知られていたがそんなに行く場所でもなかった
- ・豆腐岩と石塚山には 2,000 年当時は道がなかった。太鼓岩はなし崩し的に来るようになったが豆腐岩と石塚山はもっと登山道から近いので懸念される。今のところ登山道としては位置付けられていないが新たな太鼓岩としないようにどう対応するのか
- ・白谷雲水峡だけがすごいわけではなくて、屋久島の森林のあちこちにある。ここはレク森になっていることと、アクセスがよかったから入込数が増えただけ。白谷雲水峡のような場所はどこにあってもおかしくない
- ・白谷雲水峡まではアクセスがいいので、山に慣れていない人でも来やすい。「奥山までいなくても屋久島のいいところはここで見られる。」という所にしてしまう。現にそうになっている
- ・もののけの森よりも奉行杉コース入口がメインだったころは、白谷小屋でお昼を食べて、トイレによって帰るルートだった。今のように太鼓岩に行かないので、ゆっくり森が見られてツアーとしてはやりやすかった

- ・奉行杉コースに行きたいといったリクエストは殆どない。ただここに来ると、みなさんびっくりする。個人的にはあえてそっとしておいてほしい。脚光をあびなくてもいいのではないかとも思う
- ・白谷雲水峡では奉行杉コースで迷うかと思う。